

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム夏桜1階はる風	評価実施年月日	平成21年7月1日～7月31日
評価実施構成員氏名	高橋あずさ 田渕和子 坂野奈美 井村尚美 菊地真樹子 三浦美鈴		
記録者氏名	三浦 美鈴	記録年月日	2009/8/1

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>利用者が、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく地域密着型サービスの意義を、職員全員で確認し合い、地域との関係を重視した事業所独自の理念として作り上げている。</p>	○	<p>運営理念「大切な命を元気で楽しい命に」に沿ったケアに継続して取り組んでいきたい。</p>
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>毎月開催されている合同カンファレンスでは、全職員で理念と心得を斉唱、共有して、日々のサービス提供場面に浸透するように取り組んでいる。</p>	○	<p>取り組んでいる5つのサービス提供心得を周知していききたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 耳を傾けましょう 2. 手を差しのべましょう 3. 美味しく食べましょう 4. 草花、音楽を楽しみましょう 5. 希望を持って元気な皆様の命に感謝しましょう
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>来訪者の目に付きやすいエントランスに理念を掲示している。 パンフレット、定期的に発行している広報誌の中で理念を掲載している。 日々のサービス提供場面で、理念がケアに反映されるよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩に出かけたときには、近隣の人達と挨拶を交わしたり、会話の中で「気軽に立ち寄って欲しい」ことを話している。 地域のボランティアと一緒に散歩するときもある。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に加入しており、事業所として地域活動や行事等に参加している。 地域の方々が、定期的(1回/月)にボランティアとして訪問して下さる。 ボランティアは、定期活動以外にも、事業所の炊起し、外出時の送迎等に協力して下さる。</p>	○	<p>事業所として、町内会行事(町内清掃、ピアノコンサート、茶話会、歩け歩け運動、盆踊り等)、近隣の特養祭り等に参加している。 事業所行事(春、夏、秋、冬の外出行事、開設記念、クリスマス会)に地域の方々が参加する双方向的関係作り今後も継続して取り組んでいきたい。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>事業所自主研修を開催して、地域・家族に貢献するよう取り組んでいる。 運営者、管理者は、地域の研修、会合に関わりながら学習会の中で、認知症ケアの啓発に努めている。</p>	○	<p>町内会で開催された行事(抹茶のお点前と作法を楽しむ)を、事業所内で地域と連携を取り合って実施している。地域と支えあいながら、高齢者等の暮らしに役立つよう取り組みたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全職員で取り組むようにしている。 外部評価の結果は、カンファレンスで報告し、改善に向けての検討や実施につなげるよう取り組んでいる。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、評価内容を説明してから外部評価の結果を報告し、明らかになった課題については改善されるようモニター役になってもらっている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	札幌市主催の研修、GH管理者会議、集団指導等には積極的に参加し、市町村と共にサービスの質の向上に取り組むように努めている。	○	運営推進会議に市町村担当者に参加してもらおう取り組んでいきたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者や職員は、地域福祉権利擁護や成年後見制度の研修に参加するよう取り組んでいる。参加後は、内部研修で全職員が学ぶ機会を持つようにしている。	○	事業所自主研修の中に、成年後見制度を学ぶよう年間計画に取り入れていることを実施したい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止に関する外部研修に積極的に参加している。 事業所自主研修で虐待防止関連法を学び、事例を通して防止策を話し合う等、遵守に向けた取り組みに努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は、重要事項説明に十分な時間をとっている。また、事業所のできることで、できないことを明確に説明し、重度化についての対応、医療連携体制等を説明し、同意を得るようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	訪問診療同行の看護師に、1回/週訪問看護で利用者の健康管理の外、相談にのってもらっている。また、ボランティアに話し相手をしていただき、外部者へ表せる機会を設け運営に反映させている。職員は、利用者の言動からその思いを察してカンファレンス等で話し合っている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月のホーム便り、事業所広報誌で、行事、生活の様子、職員異動等について知らせている。来訪時には、近況報告以外にも写真やビデオを見ていただくよう取り組んでいる。1ヶ月毎に、個々の金銭出納帳を明示し、確認印をいただいている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月のホーム便りや来訪時等で問いかけて、話しやすい雰囲気作り心掛けている。家族から出された意見・要望等は、スタッフノート、個人ノート、申し送り、カンファレンスで周知、反映させている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な個別面談、日々の申し送り、カンファレンス等で職員の意見や要望を聞くようにしている。管理者は、日頃からコミュニケーションをとるように心掛け意見や悩みを聞くように取り組んでいる。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務シフトは、できるかぎり無理のないよう工夫しており、日中から、利用者との関係ができていない職員を夜勤シフトに入れている。また、管理者は、状況に応じた対応ができるように、通常、シフトに入れてないため夜間対応や利用者の状況変化に応じた体制がとれるようにしている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員が代わる時は、引継ぎ期間を1ヶ月間とり、スムーズに移行できるよう配慮している。職員の離職時や新しい職員が入った時は、利用者で紹介する等ダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所外で開催される研修には、多くの職員が受講できるよう取り組んでいる。研修報告は、毎月の全体カンファレンスで発表。研修報告書は、全職員が閲覧する。また、法人にも提出している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	北海道認知症高齢者GH協議会に加入しており、スタッフ育成研修、厚別区同業者の勉強会に積極的に参加して交流に努めている。町内会を通じて、地域同業者との良好な関係作りに努めている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	運営者は、職員が業務から離れて気分転換できるように休憩時間と休憩場所を確保している。機会があるごとに、職員のストレスや疲労を把握するように努めている。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員が向上心を持って働き続けるよう定期的に職能評価を行っている。また、労働条件を整えて、健康診断を実施する等、心身の健康を保って働けるように努めている。運営者は、事業所行事に積極的に参加して利用者や職員と過ごし、職員の努力を把握するよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前に、家族、本人面談を行い生活状態を把握するよう努めると同時に、意向や不安を理解して受け止めるよう努力している。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談をする家族の立場に立って、これまでの経緯を傾聴し、家族が求めているものを理解して受け止めるように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時に、本人、家族の実情や要望をもとに「その時」何が必要かを見極めるよう努める。また、場合によっては他のサービス機関につなげるよう取り組んでいる。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用開始前に、本人や家族に事業所を見学してもらって短時間過ごす等、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族と相談しながら工夫している。また、本人が安心できるような柔軟な対応に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者は、人生の先輩であるという考えを全職員が共有して、多くの利用者の得意分野で力を発揮してもらう場面を作り、お互いが協働しながら支えあう関係を築くよう取り組んでいる。	○	料理、裁縫、畑仕事等、個々の得意なことを教えてもらったり助言を求めよう取り組んでいることを継続したい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の日々の生活の様子や職員の気づきをきめ細かく伝え、情報共有に努めながら一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	本人と家族の思いを受け止めて、両者のより良い関係が築いていけるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	お墓参り、法要、旅行等、家族との外出機会を続けながら馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。昔から楽しんでいる詩吟講座の送迎、馴染みの理容院に行かれる等、一人ひとりの生活習慣を大切にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	毎日のお茶や食事の時間は、職員が同席して多くの会話を持つようしており、一人ひとりが孤立しないように場を和ますよう工夫をしている。 役割活動等を通して利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了しても、移行先へ面会に行ったり、その家族が来訪して下さったり、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、一人ひとりの思いや意向を把握するよう勤め、カンファレンスでは、本人本位の暮らし方を検討するよう取り組んでいる。 サービス担当者会議には、家族にも参加していただき、本人と家族の思いを大切にしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の面談やセンター方式ABシート、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの一日の過ごし方、生活リズム、心身状態を記録に残すと共に申し送りで伝達して情報を共有している。	○	部分的な把握にとどまることなく、総合的に把握するよう努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者が自分らしい暮らし方ができるよう、本人や家族の思いや意見を反映した介護計画を作成するよう努めている。 生活、心理面の視点やできないことよりできることに注目して、アセスメント、モニタリングを実施している。また、家族に参加していただくこともある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間に応じて家族、本人の要望、計画の遂行状況等を鑑みながら評価するとともに、新たな計画を作成している。また、利用者の状態変化が生じた場合は、見直しを行うよう取り組んでいる。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別にファイルを用意して、食事、水分量、排泄、睡眠、暮らしの様子、本人の言動、エピソード等を記録に残し、全職員が情報共有するための確認を義務付けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療連携体制を活かして、利用者の健康管理を維持、安定した生活が継続できるよう支援している。また、本人や家族等の状況、その時の要望に応じて、通院同行や送迎等、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が、安心して地域での暮らしを続けられるよう、町内会、福祉推進協議会(ボランティア)、民生委員等と協力しながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者、家族等の意向や必要性に応じて、訪問理美容、訪問マッサージ、クリーニング、新聞購読等を利用するための支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加することで、周辺情報等の情報交換や協力関係を築くよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人及び家族等が希望するかかりつけ医と事業所の関係を築いている。また、受診や通院は、基本的には家族同行となっているが、対応ができないときには職員が代行することもあり、その旨を利用契約時に説明し同意を得ている。</p>		
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>事業所の提携医療機関は内科医であるが、認知症の理解等自己研鑽に励んでいるため利用者の状況に応じて指示や助言をもらっている。必要に応じては、認知症専門外来や脳神経外科受診につなげるよう支援している。</p>		
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>事業所の提携医療機関から1回/月の訪問診療時に同行している看護師が、1回/週訪問看護として、利用者の日常の健康管理や医療面での相談、助言を行ってもらっている。</p>		
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時には、本人の支援情報を病院関係者に提供し、また、退院に向けた場合に備えて、病院関係者や家族とも情報交換や相談に努めている。回復状況等をするために、職員が頻繁に見舞うようにしている。</p>		
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>事業所としては、重度者や終末期の人を対象にしている旨を、利用契約時に説明し同意を得ているが、日常の健康管理や急変時には、本人、家族等と医師等を交えて方針を共有して話し合っている。</p>		
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>利用契約時に、利用者が重度化した場合や終末期のあり方について、事業所の「できること、できないこと」を説明し同意を得ているが、利用者が一日一日をより良く暮らすために、かかりつけ医と看護師と共にチームとしての支援に取り組むようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>利用者が移り住む際は、これまでの暮らしが継続できるようアセスメント、ケアプラン等の支援情報を提供して情報交換を行い、馴染みの職員が訪問に行く等、住み替えによるダメージを防ぐよう努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>自主研修やカンファレンスでは、認知症の理解や尊厳等について学び、意識向上を図るよう取り組んでいる。 日々のケアの中で、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応や記録等の点検に努めている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員は、利用者と過ごす時間を通して、利用者の思いや希望、関心等を見極め、働きかけるよう支援している。</p>	○	日常生活の中で、利用者自身が決定する場面を具体的に作るよう取り組みたい。
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、その日、その時の本人のペースを尊重するように、また、一人ひとりの気持ちや体調に配慮しながらできるだけ個別性のある支援に取り組んでいる。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>朝や外出時の着替えは、本人が決めており、職員は、見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。 外出や行事には、化粧やおしゃれを楽しむような支援をしている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者と職員が、その人に合わせて一緒に調理、盛り付け、配下膳、片付け等を行い、同じ食卓を囲んで楽しく食事ができるような雰囲気作りに心掛けている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒の好きな利用者には、行事、野外バーベキュー等で楽しんでもらうよう取り組んでいる。不定期だが、家族と外食した時には、必ずビールを飲んで楽しめるよう支援している。 自室にコーヒーを置いて、毎朝、亡夫の遺影にあげた後に、飲まれている利用者を見守っている。	○	体調、体重を管理しながら日常的に楽しめるよう取り組みたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間誘導することで、トイレで排泄できるよう支援している。 失敗してしまった場合でも、本人が傷つかないよう、周囲に気づかれぬよう配慮しながら対応している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的に、入浴予定日、時間帯は日中と決まっている。 夜間の入浴は、夜勤者一人のため取り組んでいない。 汗を多くかいたときは、予定日ではなくても入浴の声かけしている。 入りたくない人は、翌日へ変更している等、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の活動を多く取り入れて、生活のリズムを整えるよう努めている。 寝つけないときには、傾聴したり、温かい飲み物を飲んでもらう等、安心して眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりにあった楽しみや役割を見つけて得意分野で個別の力を発揮してもらえよう支援している。発揮して頂いたときは、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族よりお金を預かり、事業所が管理しているが、家族の協力を得て、買い物に行った先や散歩のときに、自分で支払って頂けるよう少額のお金(千～二千元)を手渡す等の工夫をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	季節や天気、本人の希望や気分に応じて、日常的に散歩、ドライブ、買い物、テラスでの外気浴等を支援することで、季節感、心身の活性化につながるよう取り組んでいる。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	四季を五感で感じてもらうために、春、夏、秋、冬には、事業所外出行事を実施している。個別に、家族と一緒に外出、旅行ができるよう支援している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望に応じて、日常的に、電話や手紙を出せるよう支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人達が、いつでも気軽に来やすい雰囲気作りに心掛けている。また、他の利用者に、気兼ねなく過ごしてもらえるよう、共有スペースを整え、居心地良い空間作りを工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	権利擁護や身体拘束に関する外部研修に積極的に参加した後は、自主研修を実施して全ての職員が認識するよう取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は、玄関、ベランダを開錠して、自由に出入りができるよう支援している。職員は、安全面に配慮しながら見守り、自由な暮らしを支えるよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は、利用者のプライバシーに配慮しながら、利用者の所在や様子を把握できる位置にさりげなく居よう努めている。夜間は、2時間ごとに利用者の様子を確認して、急変時にすぐ対応できる場所に居よう心掛けている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	全てを取り除くようなことはなく、一人ひとりの状態に応じて危険を防ぐ取り組みをしている。刃物、薬は、預かり、使用時に渡している利用者、自室に裁縫道具、湿布、点眼薬等を置いている利用者等もいる。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	インシデント、アクシデントを記録し、職員の共有認識を図っている。日々の申し送りで、一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、事故防止に取り組んでいる。また、家族への説明と報告も行っている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	全ての職員と家族にも参加していただき、年に1回、救急手当や蘇生術の自主研修を消防署関係者の協力を得て実施している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、地域住民、家族の参加、協力を得て、避難訓練を年2回実施している。地域の協力を得て、一時避難場所の確保、利用者の安全確保について、運営推進会議の中で話し合っている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族には、来訪時やサービス担当者会議に参加していただき、事業所の取り組み、一人ひとりに起こり得るリスクについて説明し、本人と家族の希望を優先した対応策を話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	職員は、利用者の日常状況を把握しており、体調の変化や異変の発見に努め、気づいたときは、バイタルチェックを行い、記録につけて情報を共有している。また、状況により医療受診につなげている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ファイルに薬の説明書を管理して、職員が内容を把握できるようにしている。薬の処方や用量が変更になったときは、経過観察して、かかりつけ医や看護師等と連携を図れるように努めている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	バランスの良いメニューを工夫して、日常の食事量、水分量、排便等を記録に残している。毎日のテレビ体操、散歩、家事活動等、身体を動かす場面を作り、自然排便できるよう取り組んでいる。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯磨きの声かけを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助している。就寝前は、義歯洗浄を行っている。また、状況に応じて歯科受診につなげている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取量を毎日チェックして記録に残し、全職員で情報を共有している。高齢者向き食事メニューをインターネットから引き出して活用している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こり得る感染症について、マニュアルを作成し、全職員で予防・対策に努めている。また、ペーパータオルを使用する等、ノロウイルスの感染予防を実施している。家族から同意をいただいた利用者と職員は、インフルエンザ予防接種を受けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板や布巾等台所用品は、毎日、漂白して衛生管理に努めている。 新鮮で安全な食材を使用するために、頻繁に買い物に出かけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関には、利用者手作りの表札を掲示し、ベンチやプランター等を置いて明るい雰囲気作りに心がけている。 外には、テーブルとベンチを置いて、誰でもくつろげる場所になるよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアの飾りつけは、利用者と一緒に考えて季節感を出すよう工夫している。 桜餅やぼた餅作り、鍋料理、バーベキュー等生活観や季節感を取り入れ、食事中には、BGMを流す工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間、ワークスペースの2ヶ所に、ソファ、テーブルを置き、写真やカレンダーを貼って居心地の良い空間を作り、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、本人や家族の希望をできるだけ取り入れ、馴染みのものや、好みのものを活かして本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室や共有スペースに、温度・湿度計を設置して、個々の状況に合わせて適切な温度・湿度を調節するようにしている。また、居室、トイレには、24時間換気を設置している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>建物内部は、全てバリアフリーで、手すりを設置して安全確保と自立への配慮をしている。洗面所は、車椅子対応できるよう高さ調整ができ、台所は、オープンキッチンになっていて自由に出入りができるよう工夫している。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>利用者一人ひとりのわかる力を見極めて、不安や混乱、失敗を招くような環境や物品については、全職員で話し合い、状況に合わせた環境整備に努めるようにしている。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>日中は、自由にベランダに出られるよう開錠している。 物干し台の洗濯物のとりこみや畑から野菜を採ってきたり、会話やお茶を楽しんだり、利用者同志で自発的に活動できるよう工夫している。</p>	

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ○②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ○②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>○①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ○②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ①理念のひとつである「美味しく食べよう」を実現するため、バラエティに富んだ毎日の献立と、行事ごとの特別メニュー、そしてお誕生日にはご本人の希望の品をお出ししている。
- ②家族とのサービス担当者会議を行い、家族の希望をケアプランに取り入れている。
- ③スタッフは入居者一人ひとりを理解しようと努めている。個々の出来る事、得意分野で力を発揮してもらえるよう支援している。
- ④個別ケアに取り組んでいます。
- ⑤スタッフの関係が良いと思います。
- ⑥地域と支え合いながら認知症高齢者が地域住民として生活の場が広がるよう取り組んでいる。